

## 管内酪農家における牛 RS ウイルス病と牛マイコプラズマ感染症の発生と対応

京都府中丹家畜保健衛生所

○折原 詳 渡邊 昌英

- 5       【発生状況】平成 29 年 4 月 7 日、成牛 60 頭規模の管内酪農家で成牛 1 頭（初産牛）が発咳、翌日より診療開始。9 日には隣接房 5 頭中 3 頭で発熱、発咳。その後、子牛・育成牛を含め急速に感染拡大。12 日に初産牛が死亡し病性鑑定。下旬に抗生物質に反応の鈍い乳房炎が多発。【材料と方法】①発症牛 5 頭の鼻腔スワブを用い病原検索、②初産牛（No.1）、肺炎症状の成牛（No.2）、肺炎及び乳房炎の成牛（No.3）の 3 頭について病理解剖及び病原
- 10       検索等病性鑑定、③乳房炎牛 6 頭等の乳汁検査。④ワクチンプログラム再検討のためワクチンに含まれるウイルスの抗体検査。【結果】①鼻腔スワブ 5 検体から牛 RS ウイルス（BRSV）特異遺伝子検出。②No.1～3 の 3 頭は BRSV 病、*Mycoplasma bovis*（Mb）感染による肺炎、Mb 感染による肺炎と乳房炎の合併症と診断。③個体乳延べ 165 検体を検査し、6 頭から Mb 分離。④ワクチン抗体の有意上昇と牛アデノウイルス等の野外ウイルス感染抗体を確認。
- 15       【対応】農家・診療獣医師等と検査結果を随時、情報共有し、連携してワクチン接種や農場内消毒を実施。Mb 排菌牛 6 頭を摘発し廃用等感染拡大防止対策を実施。バルク乳検査により 1 年間（平成 29 年 6 月から平成 30 年 5 月）Mb の清浄性を確認。【まとめ】BRSV 病と Mb の二次感染による肺炎や乳房炎が複数頭で発生。一連の防疫対応により感染拡大と再発を防止。抗体検査で、呼吸器病に係るワクチンの効果を確認し、継続接種の方針。